

【第1分科会】

第1分科会は公民館入門講座。公民館支援専門員の中田安子さんから公民館の歴史や目的、職員の役割、他地域の活動事例を、松本中央公民館の宮下明日香さんから松本市の公民館、町内公民館の事例について話題提供。

(グループワークでの意見)

- ・コロナの影響で、行事が出来なく困ったという悩みやコロナ前に行っていた事業を精査するきっかけになった。
- ・分館だけでなく、社会福祉協議会など関係団体と連携をしてやれば、役員の負担も減るのではないか。
- ・昨年度行った行事を振り返り、今年度のイベントをより楽しく充実したものにしていきたい。
- ・自分が楽しめる公民館活動分館活動をこれからやっていきたい。

【第2分科会】

第2分科会は居場所づくりプロジェクトお気楽カフェについて事例発表。吉田三区の熊澤さん、社会福祉協議会高砂さんから活動の経過と、取組について話題提供。

(グループワークでの意見)

- ・コロナ明けの中で、どのように活動をしていくのか。
- ・食事の提供時に子どものアレルギーをどう対応するか。
- ・高齢者・子どもだけでなく、現役世代も含めて、公民館の活動でどのように居場所を作っていくのか。
- ・役員の成り手や、コロナ禍でどのように活動していったらいいかわからないという中で、事例発表が公民館の活動のきっかけになるように感じた。
- ・自分が楽しく、また地域に愛着を持ってもらえるような活動のきっかけの場になった。

【第3分科会】

第3分科会は宗賀のどんぐりプロジェクトの事例発表。リーダーの松原範雄さんからどんぐりプロジェクトの経過と取組について話題提供。

(グループワークでの意見)

- ・どんぐりプロジェクトは活動を積極的に参加しているメンバーが多い中で、公民館はどちらかというところから、消極的に参加している人が多いところから、負担軽減を図るために、公民館以外の団体と協力としながら、進めていくってということも、重要ではないか。
 - ・町中には遊べる場所が少ないので、プロジェクトのどんぐり広場の見学に行きたい。
- (松原さんより) ぜひどんぐり広場の見学に来てほしい。

【第4分科会】

第4分科会は原新田分館の防災事業について事例発表。原新田分館主事の宮田幸恵さんから話題提供。

(グループワークでの意見)

- ・コロナで集まる機会が減ったことによって、人と人の顔が見える関係が希薄になってしまった。今後より公民館の目的の1つであり、人が集まる機会を作ることが大切ではないか。
- ・今までの方法だと人が集まらないため工夫が必要。
- ・人と人の顔が見える関係が必要であり大切。

【第5分科会】

第5分科会は文化財を活かした地域活動について事例発表。市文化財課の塩原真樹さんから話題提供。

(グループワークでの意見)

- ・地域の文化財について、しっかり説明できるよう知識を深めていくことが重要。
- ・公民館や分館活動に反映していくために、今後保存活用を担っていく子どもをどのように巻き込んでいけばいいか。
- ・地域によってお祭りなど子どもが関わる伝統行事を持つ地域もあるので、このような行事を大切に提唱していくことも必要。

【第6分科会】

第6分科会は地域における人権学習について事例発表。中信教育事務所生涯学習課の佐々木洋一さんから話題提供。グループワークでは子どもの人権、ジェンダー平等などについて意見交換。

(グループワークでの意見)

- ・子どもの人権で虐待を疑われる子どもが近所にいた場合、様子を見守った上で、児童相談所への通報、地域でその家庭についての見守りや声かけを行うことが必要では。
- ・ジェンダー平等では、女性だからということではなく、男性でも女性でも関わらず、家事を分担する家庭が増えてきている。地区の役員も、男性・女性にこだわらずにやれる人がやる地域が増えてきている。
- ・各地区の人権教育について、まず何をテーマにして人権教育を進めていったらいいか悩む。人権学習会をやってもなかなか人が来ないので、他の事業や会議と一緒に人権学習を進めていく必要がある。

分科会の報告を受けて・研究集会全体を通して (公民館支援専門員 中田安子さんより)

防災についてあらゆる場所で地震などが起きている。防災学習は災害時にどのように行動するのか学ぶことも大切だが、地域内・近所・隣同士でどうやって助け合うのかが1番大事になってくる。ぜひ分館で考えてほしい。

また10年、20年後、その地域で暮らしていて、自分がどうありたいかということを思い浮かべ、公民館がどんな役目を果たしていくべきか、どんな公民館だったらいいのかなど先を考えてほしい。そのような観点で公民館活動を活発にしてほしいと思う。